

南信州地域公共交通網形成計画（案）に係るパブリックコメントの結果について

(提出順)

提出意見 1 飯田市 男性	
意見	回答
<p>1 公共交通の利用者拡大について</p> <p>(1) 幅広い利用者に対応するためには運行費用の増額</p> <p>ア JR飯田線と路線バスの連携</p> <p>イ 受益者負担（通学定期以外の必要最低限の運賃改定）</p> <p>ウ 公共交通に乗る楽しさや便利さをPRする など</p> <p>(2) 地球温暖化の抑制に寄与することや地域の課題として認識していただく住民意識の醸成が必要</p> <p>ア 1年に1度でも公共交通を利用していただけるような施策の展開</p> <p>イ 公共交通の維持が福祉に繋がっていることの認識など</p>	<p>お寄せいただきましたご意見の内容は、本計画案を策定する段階で課題として検討して参りました。</p> <p>今後、本計画を実施するに当たり、いただいたご意見を参考に事業を推進して参ります。</p>
提出意見 2 飯田市松尾 女性	
意見	回答
<p>1 千代線、久堅線、三穂線の土曜、日曜、祝日運行を行って欲しい。</p> <p>2 JR飯田線乗継タクシー（特に鼎駅発）を存続して欲しい。</p> <p>3 市内循環線を鼎駅に接続して欲しい。</p> <p>4 コンビニで路線バス回数券を販売して欲しい。</p>	<p>個別の路線のありかたについては、お寄せいただいた意見などを参考に当協議会が調整を行いながら、路線バスを運行している各協議会で検討して参ります。</p>

提出意見3 飯田市松尾 男性	
意見	回答
1 計画案の簡素化及び実施計画のさらなる具体化について 2 ソフト面の取り組みとして公民館を通じた住民運動に発展すべき。 3 公共交通は伊那谷全体の共通課題です。リニア中央新幹線開業を見据えて上伊那、下伊那の大きな枠組みの中で検討すべき。	1 可能な限り圏域住民の方に理解していただける内容とするよう努めて参ります。また、今後、各協議会とともに具体的な事業の実施に努めて参ります。 2 ソフト対策は、非常に大切な取り組みと考えております。現行計画でも市町村教育委員会や各中学校や社会福祉協議会など共同で、バスの乗り方教室を実施し、利用者の拡大に取り組んできました。今後も様々な機会を捉えて公共交通のあり方について、取り組んで参ります。 3 生活・文化・経済が一体となっている当圏域では平成21年に策定された南信州地域公共交通総合連携計画をはじめに、第2次連携計画・本計画と、南信州14市町村を対象とした広域的な計画として策定に取り組んで参りました。また、本計画では、「リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくり」を目標の一つとしており、新たに二次交通の充実の検討を進めていきます。

提出意見4 阿南町和合 女性	
意見	回答
南部公共バスの運行時刻改正に関する提案	個別の路線においても、乗り継ぎのしやすさや費用対効果など南信州圏域全体の交通体系を考慮して時刻改正を行っておりますので、お寄せいただいたご意見などを参考にして、当協議会が調整を行いながら路線を運行している各協議会で検討していきます。

提出意見5 男性	
意見	回答
<p>LINE アプリを利用した過疎地域の交通不便者の市街地地域へのアクセス対策について</p> <p>1 LINE アプリによる登録制の相乗り移送サービスの展開を考えられないか。</p>	<p>1 現行の道路運送法は、有償で第三者を移送する場合、自家用有償旅客運送自動車の運転手の受講義務や移送団体の登録などを行わなければ移送することができません。無償で移送する場合は、事故の発生時の責任問題などの課題があります。しかし、公共交通の担い手が、少なくなっている中で、公共交通を維持する様々な方法を検討していく必要があります。</p> <p>今後、お寄せいただいた意見などを参考に当圏域における公共交通のあり方について検討を進めて参ります。</p>

4 報告事項(2) 平成27年度上半期利用者実績

路線バス

H27年4月～H27年9月(単位:人)

路線体系	路線名	H27	H26	比較	
		4月～9月	4月～9月	増減数	前年度比
基幹	駒場線	120,005	106,298	13,707	112.9%
	阿島線	11,932	11,084	848	107.7%
	阿南線(阿南～飯田) ※温田線含む	23,621	25,536	▲1,915	92.5%
准基幹路線合計		155,558	142,918	12,640	108.8%
准基幹路線合計	遠山郷線	9,596	9,568	28	100.3%
	平岡線	1,113	1,004	109	110.9%
	市民バス循環線 (右回り、左回り)	41,909	43,906	▲1,997	95.5%
	西部コミュニティバス	8,060	6,137	1,923	131.3%
	大鹿線	5,511	4,657	854	118.3%
准基幹路線合計		66,189	65,272	917	101.4%
支線	市民バス大休線	2,187	2,096	91	104.3%
	市民バス千代線	1,603	1,605	▲2	99.9%
	市民バス久堅線	1,363	979	384	139.2%
	市民バス三穂線	2,045	1,062	983	192.6%
	上片桐循環線	5,831	4,612	1,219	126.4%
	大島循環線	2,307	2,262	45	102.0%
	生田循環線	2,814	3,240	▲426	86.9%
	生田線	4,281	5,315	▲1,034	80.5%
	部奈線	3,410	2,985	425	114.2%
	泰阜線	201	450	▲249	44.7%
	阿南町民バス	4,333	4,039	294	107.3%
	伍和・智里東	3,151	3,756	▲605	83.9%
	春日・智里西	2,782	3,056	▲274	91.0%
	清内路	4,430	4,125	305	107.4%
	浪合	831	1,065	▲234	78.0%
	天龍村営バス神原線	2,084	2,426	▲342	85.9%
	氏乗線	2,200	2,234	▲34	98.5%
	喬木大島線	1,363	1,518	▲155	89.8%
	堀越線	696	855	▲159	81.4%
	佐原線	871	1,081	▲210	80.6%
	壬生沢線	167	70	97	238.6%
	福島線	160	125	35	128.0%
	壬生沢福島線	205	233	▲28	88.0%
滝川阿島北線	798	398	400	200.5%	
支線合計		50,113	49,587	526	101.1%
バス合計(福祉バス除く)		271,860	257,777	14,083	105.5%

乗合タクシー

路線体系	路線名	H27	H26	比較	
		4月～9月	4月～9月	増減数	前年度比
准基幹	上市田線	1,396	1,333	63	104.7%
	平岡線	1,869	2,122	▲ 253	88.1%
准基幹路線（乗合タクシー）合計		3,265	3,455	▲ 190	94.5%
支線	かざこし線	1,073	1,134	▲ 61	94.6%
	三穂線	1,742	1,728	14	100.8%
	川路線	861	775	86	111.1%
	竜東線	3,904	4,539	▲ 635	86.0%
	遠山郷線	313	264	49	118.6%
	上村線	98	108	▲ 10	90.7%
	下栗線	118	155	▲ 37	76.1%
	須沢線	82	73	9	112.3%
	上島線	6	20	▲ 14	30.0%
	八重河内線	634	625	9	101.4%
支線（乗合タクシー）		8,831	9,421	▲ 590	93.7%
乗合タクシー（通学支援タクシーは除く）合計		12,096	12,876	▲ 780	93.9%
バス・乗合タクシー合計		283,956	270,653	13,303	104.9%

4 報告事項（1）平成27年度中間事業報告

1 南信州公共交通システム認知度向上事業

圏域住民に「南信州公共交通システム」を広く周知し、自家用車主体の生活様式から、公共交通を交通手段のひとつの選択肢と意識付けするための利用促進・転換事業の推進を行う。

（1）広報誌の発行〔パブリックコメントの募集（12月号）・No.9（3月号）発行、45,070部全戸配布・一部組合回覧〕

ア 12月号掲載内容「すきです南信州（南信州広域連合広報）」

南信州地域公共交通網形成計画案に関するパブリックコメントの募集の周知

イ 3月号掲載内容「のってみまいか公共交通No.9号」

- ・公共交通を使ったおでかけプラン第5弾「天龍村」
- ・エコ通勤の啓発

（2）飯田広域消防と連携したバスの写生大会及び乗り方教室の実施。

開催日 H27年9月21日（月）敬老の日

場 所 飯田広域消防本部

参加者 120名

バスの乗り方受講人数 60名

2 情報提供事業

（1）タブレットやスマートホンに対応するため「南信州公共交通インフォメーション」の改修を行い、当圏域の公共交通の情報発信や利用者に分かりやすい路線図・時刻表（目的別時刻表等）を提供し公共交通利用者の利便性向上につなげた。

URL <http://kk.minami.nagano.jp/>



3 各協議会及び市町村等関係各機関と連携した既存公共交通の改善事業・利便性向上事業

公共交通をより利用しやすいものとするため、当圏域における関係各機関と連携し改善を図る。

（1）運転手の接遇研修会を実施し、圏域全体の公共交通のサービスレベルの向上を図った。

開催日 H27年 7月26日（日）

場 所 飯田市鼎文化センター 展示室

出席者数 20名

（2）圏域全体の路線バスカラー・ナンバリングを再検討し、H28年度方向幕及び時刻表への反映に繋がった。

（3）ホームページでの全路線時刻表の統一フォーマット化を実施。H28年度時刻表（紙ベース）の統一化に繋がった。

（4）関係各機関との情報交換等の実施により、既存公共交通の運行見直しや乗り継ぎの改善を図る。

平成28年1月22日にバスのダイヤ調整会議を開催し、接続路線におけるシームレスダイヤにつ

いて調整を図った。

(5) 各関係機関のはたすべき役割に対し側面的支援または協働実施する。

各地域公共交通会議への出席。各地域公共交通会議と協働し利用促進・利用転換事業の推進を行った。

(6) リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくりに関する検討・研究を行う。

地域公共交通の再編に係る研究会を立ち上げ、再編実施計画策定に関する研究を行った。

4 公共交通利用促進・利用転換事業

ターゲットごとに利用促進、利用転換事業を実施し利用者拡大を図る。

(1) エコ通勤（電車・バス）の啓発活動

ア 自家用車を利用している通勤層をターゲットとし、FMコミュニティを活用したエコ通勤の啓発活動を実施。

第1回 忘年会・新年会時期 H27年12月21日からH28年1月20日 1日2回放送

第2回 歓送迎会時期 H28年3月21日から4月16日 1日2回放送

イ 月刊いいだ4月号への掲載〔現在実施中〕

(2) 小学生、中学生に対するバスのワークショップの開催。

公共交通から学ぶ環境問題のワークショップ及びバスの乗り方教室、乗車体験の実施。

豊丘北小学校 6年生及び教員 20名

根羽中学校 3年生及び教員 35名

天龍中学校 3年生及び教員 5名

大鹿村中学校 3年生及び教員 6名

(3) 新入生（高校1年生）に対する公共交通利用啓発活動〔取組実施中〕

南信州圏域の8高校におけるオリエンテーションの際に公共交通利用に関するチラシを配付する。

5 結節点停留所整備事業

中心地の拠点である市立病院結節点停留所に電子端末機を設置し、乗継案内情報を発信する。市立病院を経由し移動することができる路線を検索可能。



6 JR 飯田線の利用促進事業

J R 飯田線活性化期成同盟会をはじめとする、沿線市町村、関係各機関とともに維持確保に向けた利用促進の取り組みの検討・啓発活動を行う。

エコ通勤（電車・バス）の啓発活動【再掲】

（1） 自家用車を利用している通勤層をターゲットとし、FMコミュニティを活用したエコ通勤の啓発活動を実施。

第1回 忘年会・新年会時期 H27年12月21日からH28年1月20日 1日2回放送

第2回 歓送迎会時期 H28年3月21日から4月16日 1日2回放送

（2） 月刊いいだ4月号への掲載〔現在実施中〕

7 南信州地域公共交通網形成計画策定

圏域全体の公共交通の計画として関係機関、市町村と連携し策定。

平成27年度決算見込み

平成27年度 南信州地域交通問題協議会 会計決算書(見込み)

収入金額	5,343,572 円
支出金額	3,386,786 円
差引残額	1,956,786 円

(収入)

(単位: 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
負担金	3,223,000	3,223,000	0	南信州広域連合負担金
補助金	0	0	0	
繰越金	2,119,896	2,119,896	0	前年度繰越金
諸収入	104	676	572	利息
計	5,343,000	5,343,572	572	

(支出)

(単位: 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
運営費	733,000	386,786	△ 346,214	
報償費	435,000	300,000	△ 135,000	委員等報償費(策定委員会4回、総会2回)
旅費	205,000	50,000	△ 155,000	講師旅費、委員旅費(計画策定委員会4回、総会2回)
消耗品・事務費	93,000	36,786	△ 56,214	通信運搬費、振込手数料、消耗品等
事業費	4,600,000	3,000,000	△ 1,600,000	利用促進事業 (広報誌、結節点整備事業、南信州公共交通 インフォメーション改修費等)
補助金	0	0	0	
予備費	10,000	0	△ 10,000	
計	5,343,000	3,386,786	△ 1,956,214	

上記は年度末の見込み額であり、総会時点においては未執行額も含まれる。

4 報告事項 (4) 地域公共交通調査事業 (計画推進事業)

補助対象事業者名：南信州地域交通問題協議会

実施項目	実施内容	対象地域	要望額	補助対象経費の算出根拠
行き先や乗車車両をわかりやすくするための案内整備	<p>住民や来訪者が時刻表と照らし合わせ、行き先や乗車車両を容易に確認できるように、車両や方向幕に路線番号、カラー、行き先等を表示し、安心して利用できる環境を整備する。</p> <p>コミュニティバス2台(阿智村)にパートラッピングを実施。地域全体を考慮した路線番号、カラーを施す。スペースの一部に村の観光地や募集ロゴ等をペイントする。</p>	阿智村	486千円	<p>バスラッピング(パート)</p> <p>…阿智村 972千円(486,000円×2台)</p>
わかりやすい時刻表の作成	<p>路線番号、カラー、統一様式を考慮したわかりやすい時刻表を作成する。</p> <p>①飯田市(バス29,740部,乗合タクシー2,200部)</p> <p>②松川町(4,700部)</p> <p>③阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村(6,000部)</p> <p>④阿智村(2,800部)</p> <p>⑤喬木村(2,000部)</p>	飯田市、松川町、阿智村下條村、売木村、天龍村、泰阜村、阿智村、喬木村	1,726千円	<p>時刻表印刷経費</p> <p>…飯田市 2,680千円(83.9円×31,940部)</p> <p>…松川町 270千円(57.4円×4,700部)</p> <p>…阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村 240千円(40円×6,000部)</p> <p>…阿智村 74千円(26.4円×2,800部)</p> <p>…喬木村 188千円(81.7円×2,000部)</p>

<p>子供やバス未利用者を対象としたバスの乗り方教室の実施</p>	<p>バスの乗降方法や運賃の支払い方法について学べる資料を作成。南部地区の中学校5校（阿南第二中学校、下條中学校、売木中学校、天龍中学校、泰阜中学校）または、南部地区の高齢者を対象に実際に車両を借り上げて、作成した資料により乗り方教室を実施する。</p>	<p>飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村</p>	<p>99 千円</p>	<p>バスの乗り方教室参加者に配布するための資料 … 99 千円（101 円×980 部）</p>
<p>合 計</p>			<p>2,311 千円</p>	

南信州地域公共交通網形成計画案について（本文抜粋）

1 第 1 章 南信州地域の公共交通に関する最近の取組（P 1～3）

H20 年 3 月 南信州地域交通問題協議会設立

H21 年 4 月 南信州地域公共交通総合連携計画（H21 年 4 月～H26 年 3 月）施行

H26 年 4 月 第 2 次南信州地域公共交通総合連携計画（H26 年 4 月～H31 年 3 月）施行

H25 年 12 月 交通政策基本法 施行

H26 年 11 月 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 改正

H27 年度 南信州地域公共交通網形成計画策定（第 2 次連携計画から移行）

2 上位計画

当地域全体を対象とした地域づくりのマスタープランである「南信州広域連合基本構想・基本計画（第 4 次広域計画）」を上位計画として位置づけ、上位計画の目的である「定住促進」を実現させるために、まちづくりと調和した公共交通の構築を目指していく。

上位計画	計画期間
南信州広域連合基本構想	平成 27 年 4 月から平成 37 年 3 月 10 年
南信州広域連合基本計画	平成 27 年 4 月から平成 32 年 3 月 5 年

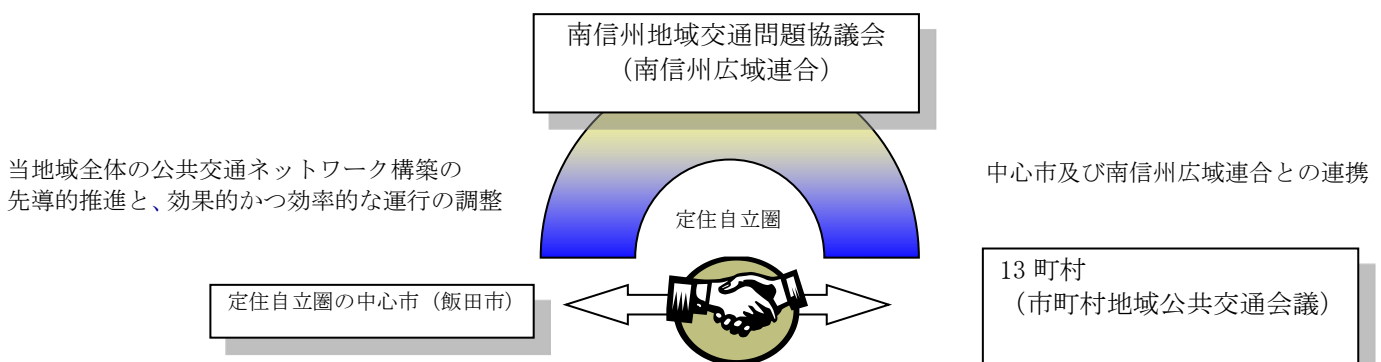
3 広域連合による地域づくりと南信州定住自立圏の枠組との補完関係

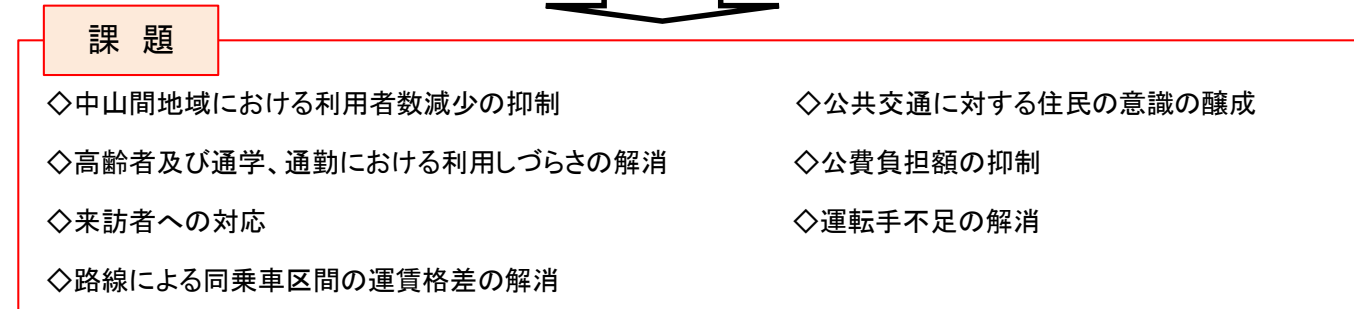
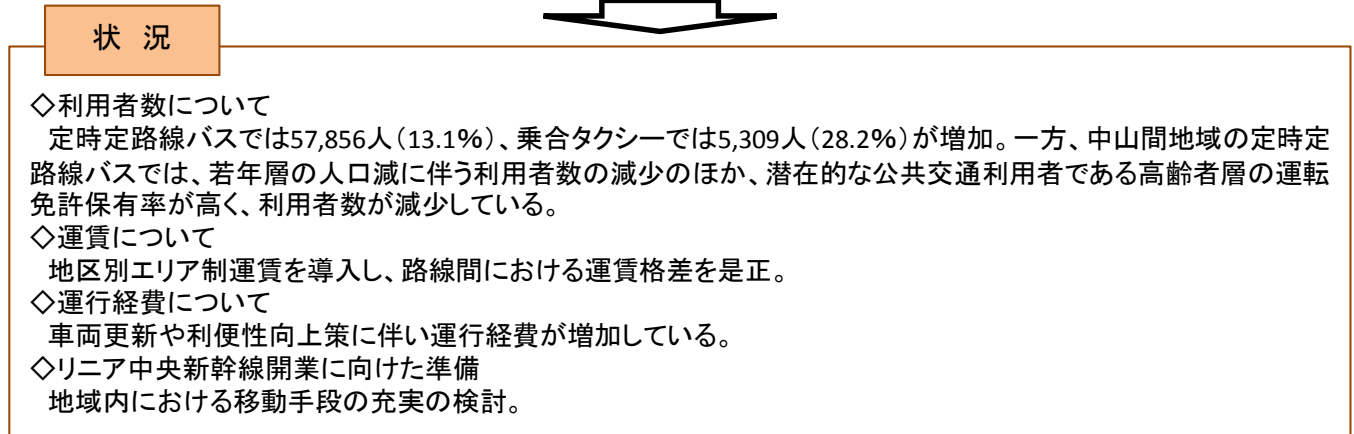
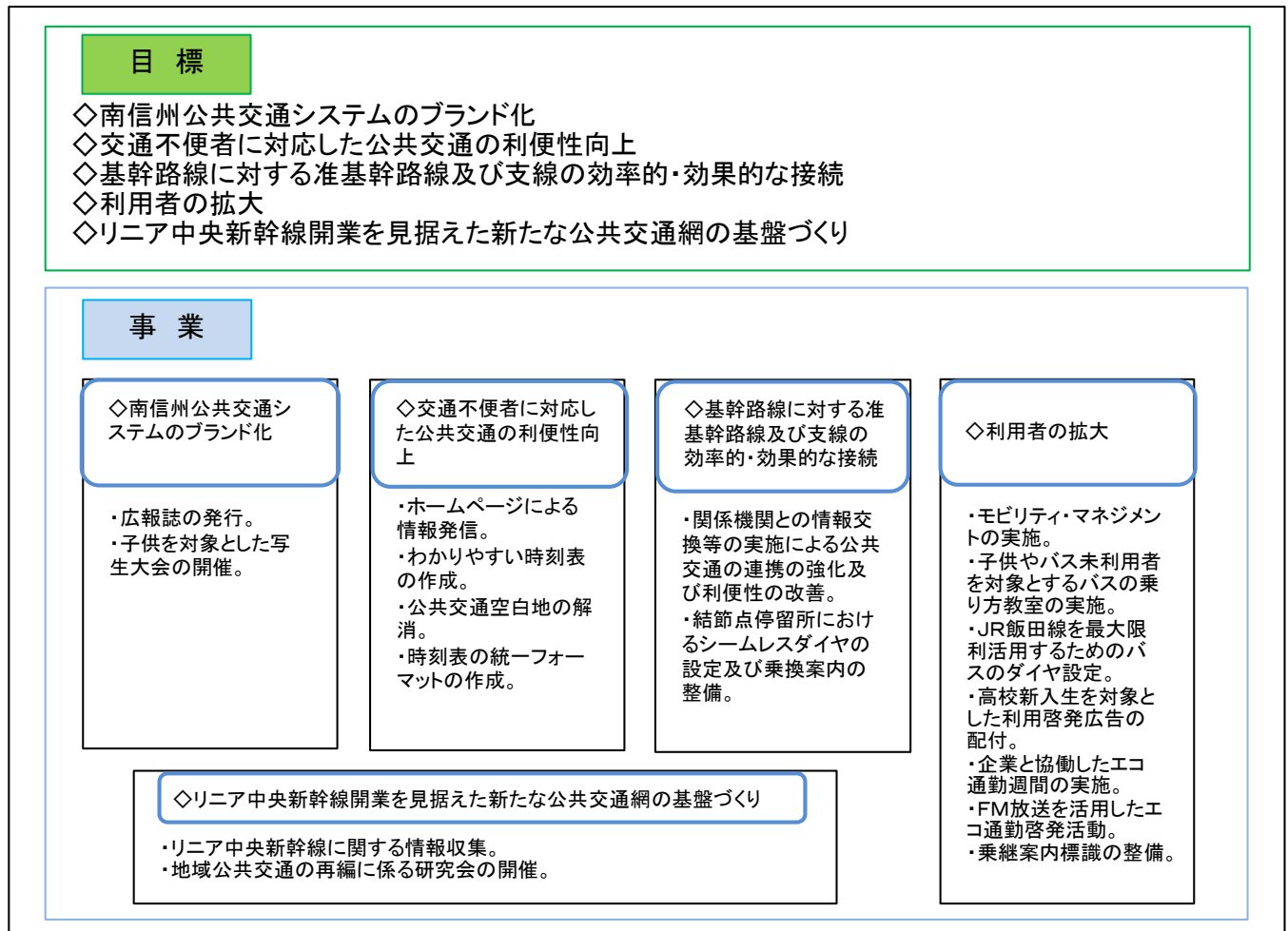
広域連合は、南信州地域全体を包括する本計画の策定支援とその実施に係る連絡調整を行い、当地域全体のマネジメント機能を果たしながら関係市町村と連携し、14 市町村間や路線間の調整を担っていく役割を果たす。

定住自立圏協定は、広域連携による一体的な地域づくりを補完する役割を果たす。

当地域の住民福祉の向上と一体的な地域づくりは、広域連合と、定住自立圏協定、更には 14 市町村が状況に応じて互いに補完し合いながら推進していく。

南信州地域全体のコーディネート（市町村間・路線間の調整）





2 検討すべき事項

課 題	検討事項
中山間地域における利用者数減少の抑制	幅広い利用者に対応した運行を検討し、普段から公共交通を移動手段の選択肢にできるダイヤを設定する。
高齢者及び通学、通勤における利用しづらさの解消	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各高校との情報連携を図り、部活動や通勤時間帯に対応した運行を検討するとともに、更なるサービスの向上に努める。 (2) 高齢者が日常的に外出しやすいダイヤや路線を再検討する。 (3) 路線バス、電車の待ち時間に対する不満を解消するため、シームレスダイヤ等乗継の改善を図る。
来訪者への対応	<ul style="list-style-type: none"> (1) 南信州地域住民のほか来訪者にとってスムーズに目的地に行き着くためのわかりやすい案内表示（時刻、路線の案内等）を整備し、誰にもやさしい公共交通の構築を目指す。 (2) 路線バス、電車の待ち時間に対する不満を解消するため、シームレスダイヤ等乗継の改善を図る。
公共交通に対する住民の意識の醸成	公共交通に対する地域住民の理解を深め、バス利用に対する精神的な障壁を下げるとともに、バス・鉄道など複数の路線を乗り継ぐことで他市町村へ出掛けることができることを周知し、自家用車以外の日常的な移動手段のひとつとして意識していただける活動を推進する。
公費負担額の抑制	持続可能な公共交通を確保するため、提供するサービス水準を低下させず、多様な運行形態を組み合わせるなど地域の実情に合った移動手段を検討し、運行経費の抑制及び運行収入増加の研究を行う。
路線による同乗者区間の運賃格差の解消	同じ区間やエリア内を運行する運賃の統一を図り、路線による運賃格差を是正する。

3 第3章 当地域の公共交通の目指すすがた（P12～23）

地域住民のための生活交通	高校生や高齢者などの移動（おでかけ）手段の確保。
来訪者のための二次交通	来訪者が目的地にスムーズに行き着くことができるための、わかりやすく、利便性の高い地域内の移動手段（二次交通）の整備。
基本方針	地域の公共交通が住民にとって日常的に使いやすい移動手段であるとともに、来訪者にとっても安心して使いやすい地域内の移動手段となるよう充実を図り、誰にもやさしくより便利な公共交通（南信州公共交通システム）の構築を目指す。

4 目標

基本方針を実現するため次の目標を定める。

テーマ	目 標
もっとやさしく	A 交通不便者や来訪者に対応した公共交通の利便性向上 学生や高齢者はもとより来訪者にもわかりやすい案内を提供し、利用しやすい公共交通として整備する。
	B 利用者層及び利用者数の拡大 公共交通への利用転換、利用促進等の実施や、利用者の生活に合った運行ダイヤを検討し、利用者層及び利用者数の増加を図る。
もっと便利に	C 基幹路線に対する准基幹路線及び支線の連携強化 持続可能な運行形態を検討するとともに、接続路線の乗継を改善し段階的な路線網の整備を図る。
地域のおでかけを支えるしくみ	D 南信州公共交通システムのブランド化 公共交通を維持するため、南信州公共交通システムを広く周知し、公共交通に対する意識の醸成を図る。
	E リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくり リニア中央新幹線開業を見据えた地域内の移動手段の充実を検討する。

定量目標値

	目標	評価軸	評価基準	現状 (H25 年度)	目標値 (H32 年度)	算出方法
A	交通不便者や来訪者に対応した公共交通の利便性向上	移動手段の充実による住民生活の質的向上	高齢者の買い物におけるバス利用者満足度	バス利用者の満足度 27.6%	30%	アンケート
B	利用者層及び利用者数の拡大	自家用車を運転している高齢者の公共交通への利用転換	高齢者の公共交通（バス、JR飯田線、乗合タクシー、タクシー）への利用転換者の増加	公共交通を利用している高齢者割合 19.4%	21%	アンケート
		利用者数の拡大	利用者数の増加	H26 年度利用者実績 499,122	506,000 人	実績
D	南信州公共交通システムのブランド化	南信州公共交通システムの認知度	最寄りのバス停の時刻表の認知度	認知度 57.2%	62%	アンケート
			広報誌、インフォメーションの認知度	認知度 27.8%	30%	アンケート

5 定義

(1) 期間：平成 28 年 4 月から平成 33 年 3 月までの 5 年間

(2) 区域：飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

(3) 南信州公共交通システム

既存公共交通網の効率化や利便性向上、南信州地域住民への公共交通に対する啓発と来訪者を含めた利用促進を図るための次の取組からなる体系。

ア 体系化された公共交通網の設定

運行経路毎当地域全体において体系化された公共交通ネットワークとする。

イ 体系化された公共交通網の整備方針の設定

交通網を管理する上での統ルールとして、運営主体と連携して無駄のない経路を設定するとともに、乗継の負担を感じさせないダイヤ（シームレスダイヤ）や運賃などを設定する。

ウ 公共交通を使った生活を目指すための当地域全体を対象とした取組

公共交通を日常的な移動手段として、地域住民はもとより来訪者にとっても利用しやすくするためのダイヤ設定や路線の改善を図るとともに、時刻表や路線図といった運行に関する情報の周知や、地域住民を対象としたバスの乗り方教室等の啓発活動を継続的に実施する。

6 交通拠点の検討・整備【新たな取組】

(1) 交通拠点の整備

当地域は、14 の市町村から構成されており 16 万 3 千人余の住民が生活を営んでいる。中心地である飯田市には総合病院、高等学校、短期大学などの施設が集中し、中心地周辺には商業施設、事業所等が多く立地しているため、住民は各地から市町村界を超えて飯田市へ移動する割合が高い。そのため、地域全体を一体的生活圏として捉え、各地と中心地を結ぶ交通ネットワークを形成してきた。現在、飯田駅前（飯田市）、市立病院（飯田市）、こまんば（阿智村）、交流センター（喬木村）、車庫前（阿南町）を結節点停留所と位置づけ、円滑なダイヤ設定やわかりやすい乗換案内表示を整備し、乗継による利便性低下の防止に努めている。

今後、公共交通を日常的に利用しやすい移動手段として整備するために、既存の結節点停留所の位置の見直しや追加を含め再検討する。

また、来訪者にとっても利用しやすいように、わかりやすい案内表示に努め、目的地にスムーズに行き着くための環境整備を行う。

交通拠点となる場所は、地域住民が生活の中で集まる商業施設や、地域情報の発信場所となる観光施設等公共交通を待つことができる環境を備えた場所を検討する。

(2) 公共交通ネットワークの形成

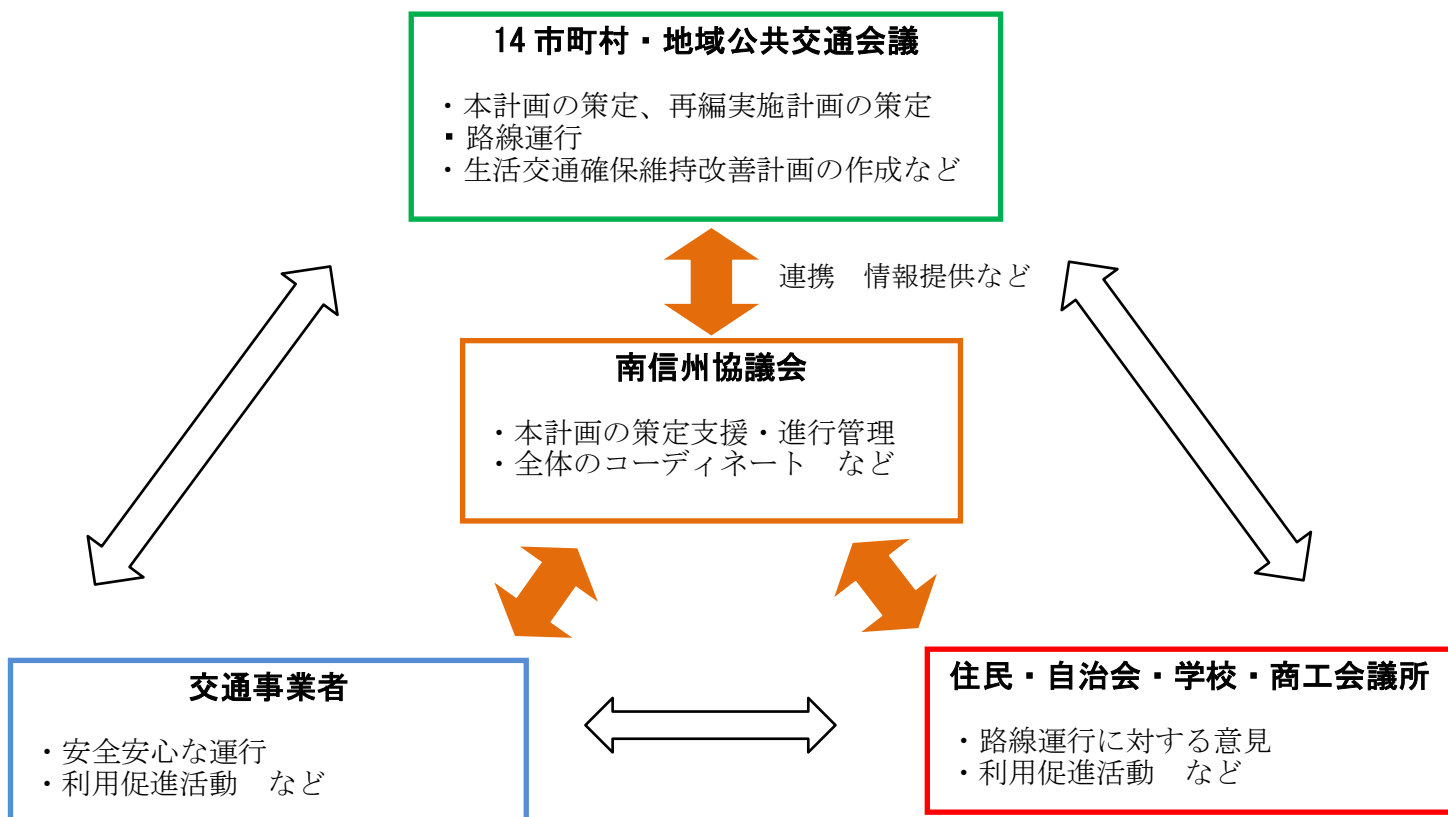
当地域では、地域全体を大きな生活圏として捉え、JR 飯田線に接続するバスを利用し結節点停留所で乗り継ぐことにより、当地域の中心地から西部方面、北部方面、南部方面に位置する町村へ移動することが可能となっている。

さらに、リニア中央新幹線長野県駅（仮称）供用後は地域公共交通網を長野県駅（仮称）に接続し、当地域への交流・定住人口の増加に努める。当地域の公共交通が、生活の移動手段と来訪者の二次交通の 2 つの役割を担うことから、それらを同時に達成する公共交通ネットワークの充実を図る必要がある。特に地域住民に対しては、生活の中で集まる場所（病院、学校、

商業施設など)への公共交通の接続を充実し、日常的な移動手段となる公共交通網の構築を目指す。

また、交通拠点の設定に合わせて市町村間をつなぐ新たな交通ネットワークを研究し、移動可能地域の拡大や、各市町村に移動しやすくなることにより来訪者の増加を図る。

7 第4章 組織体系と関係機関の連携イメージ (P24~26)



8 南信州協議会が主体となる取組

(1) 南信州地域全体のコーディネート

南信州協議会の最も大きな役割は、本計画の策定支援及び各交通事業者や各自治体、法定協議会が独自に運行している公共交通を、南信州公共交通システムとして連携させることにある。南信州協議会は、これらを実現するための協議の場であると位置づける。これにより、当システムの利便性が向上し利用者の負担軽減を図る。

また、ダイヤ改正の際、市町村をまたぐ路線に関して必要に応じ調整を行い、利用者に損失が生じないように働きかける。

(2) 南信州地域全域を対象とした利用促進事業・利便性向上事業

公共交通を維持していくためには、地域住民の公共交通に対する意識の向上や協力が欠かせない。当地域の公共交通である、JR飯田線、バス、タクシーの連携および充実を図り、様々な利用促進・利用転換事業を実施する。また、利用促進事業等は市町村が単独で実施するよりも、広域的に実施した方が効果的といえる。当地域における公共交通への利用転換事業及び公共交通利用促進事業は、市町村、地域公共交通会議、関係機関と協働で実施し、広域的に継続的に取り組むものとする。

また、JR飯田線をはじめとする基幹路線は当地域全体の重要な路線であり、利用促進事業に関しては、南信州協議会も主体的に加わり、所属する地域公共交通会議とともに地域一体となって取り組む。

バスの結節点停留所の環境改善事業については、南信州協議会が主体的に取組、利便性向上に努める。

(3) 関係機関の連携等に必要な調査及び情報の収集、情報等の提供

南信州協議会は、全体的利用促進、利便性向上への役割を果たすために必要となる情報を収集し、各地域公共交通会議及び関係機関が、南信州公共交通システムと連携するうえで必要となる情報を提供する。

また、統一運賃制度や乗継割引制度、全路線停留所の形状等の統一化、複数市町村共同運行制度について、メリット、デメリットを研究し引き続き課題解決に努めていく。

(4) リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくりの研究

リニア中央新幹線長野県駅と既存公共交通の効率的な接続や、地域内の移動手段の充実等について14市町村と研究を行う。

9 事業計画

南信州地域の実施事業及び期間

目標	事業群	事業の名称	事業の概要	目指すべき事業の方向性	実施主体	実施期間
(A) 交通不便者や来訪者に対応した公共交通の利便性向上	(A1) 情報提供事業	(A11) ホームページによる情報発信	南信州地域の公共交通の路線図や路線時刻表、目的別時刻表、運行に関するお知らせなどを発信し利用促進に努める。また、市町村と協働し、南信州地域への定住に関する情報を発信し、雇用情報のひとつとして運転従事者の募集を呼びかける。	地域別、広域的な情報発信	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議	H28～H32
				時刻表改訂時の速やかな更新		H28～H32
		(A12) わかりやすい時刻表の作成	路線番号、カラー、統一様式を考慮した時刻表の作成。	時刻表の見やすさ		H28～H32
		(A13) 行き先や乗車車両をわかりやすくするための案内整備	利用者が行き先や乗車車両を容易に確認できるように、車両や方向幕に路線番号、カラー、行き先等を表示し、安心して利用できる環境を整備する。	公共交通利用に対するわかりやすさ		H28～H32
	(A2) 利便性向上事業	(A21) 住民ニーズによる公共交通空白地の解消	地域の実情に即した需要を把握し、運行形態を考慮した公共交通空白地域の解消に努める。	住民ニーズによって解消された公共交通空白地域面積	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議	H28～H32
		(A22) 同じ乗車区間における運賃の改善	同じ路線区間の運賃の統一や乗継割引制度等の運賃の研究を行い利便性向上に努める。	外出頻度の増加 運賃に対する満足度		H28検討 H29～試行

目標	事業群	事業の名称	事業の概要	目指すべき事業の方向性	実施主体	実施期間
(B) 利用者層及び 利用者数の拡大	(B1) 公共交通利用 促進事業	(B11) モビリティ・マネジメント（公共交通の利用促進に係る取組）	自家用車主体の生活様式から、公共交通を移動手段のひとつの選択肢として認識していただくための活動を行う。	利用者数の増加 利用者層の拡大	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー） ・参画団体（自治会・学校・商工会議所等）	H28～H32
		(B12) バスの乗り方教室の実施	子供やバス未利用者を対象とするバスの乗り方教室を開催し、日常的な移動手段としての動機としていただく。	バスの乗り方の理解度の向上	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー）	H28～H32
		(B13) JR飯田線利用促進事業	JR飯田線を最大限活用できるよう、バス等の接続を行う。	利用者数の増加	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー）	H28～H32
	(B2) 公共交通利用 転換事業	(B21) エコ通勤事業	ノーマイカーデーと連携した公共交通利用に対する啓発活動及び通勤ダイヤの研究を行う。	利用者数の増加 利用者層の拡大	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー） ・参画団体（自治会・学校・商工会議所等）	H28～H32
		(B22) 公共交通にのらまいか事業	マイカー移動を主とされる高齢者を対象とした公共交通利用に係る研究を行う。	利用者数の増加 利用者層の拡大	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー） ・参画団体（自治会・学校・商工会議所等）	H28～H32
		(C11) 市町村及び各地域公共交通会議等関係機関と連携した既存公共交通の効率的な接続	各関係機関との情報交換等の実施により、公共交通の運行や乗り継ぎの改善を図る。	乗継に対する満足度	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー） ・参画団体（自治会・学校・商工会議所等）	H28～H32
(C) 基幹路線に対する 准基幹路線及び支線の 連携強化	(C1) 既存公共交通の 改善事業・ 利便性向上事業	(C12) 利用者の利便性に配慮した市町村及び各地域公共交通会議の管轄路線における安全・安心な運行	管轄路線の安全・安心な運行に努める。また、当該地域における持続可能な運行形態を検討する。	バスの運行に対する満足度	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー） ・参画団体（自治会・学校・商工会議所等）	H28～H32
		(C13) 市町村及び各地域公共交通会議等関係機関と連携した既存公共交通の改善及び利便性向上	各関係機関と連携し、公共交通の利便性の改善を図る。	利便性向上による満足度	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議	H28～H32
		(C2) 結節点整備事業	(C21) 結節点停留所の充実	複数の路線が接続する結節点停留所での乗継による利便性の低下を防ぐため、シームレスダイヤの設定や統一されたわかりやすい乗換案内表示を整備し利便性向上に努める。	乗継に対する満足度 乗継案内のわかりやすさ	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議

目標	事業群	事業の名称	事業の概要	目指すべき事業の方向性	実施主体	実施期間
(D) 持続可能な南信州公共交通システムのブランド化	(D1) 南信州公共交通システム認知度向上事業	(D11) 広報誌の発行	公共交通を利用したお出掛け情報や生活習慣病予防や健康促進、環境保全など様々な観点から公共交通の利用を広く促す。	南信州公共交通システムに対する認知度の向上	・南信州地域交通問題協議会	H28～H32
		(D12) 公共交通に親しむイベントの開催	公共交通に対する愛着を醸成するため、次世代を担う子供を対象としたイベントを開催する。	住民の公共交通利用に対する意識の醸成 利用者数の増加	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー） ・参画団体（自治会・学校・商工会議所等）	H28～H32
		(D13) 停留所のデザインの統一化	南信州地域の公共交通が地域一体的に取り組んでいるものであることを視覚的に訴えるために主要な停留所のデザインの統一化を行う。	南信州公共交通システムに対する認知度の向上	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議	H28～H32
(E) リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくり	(E1) リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくり	(E11) リニア中央新幹線開業を見据えた地域内の移動手段の充実	リニア中央新幹線長野県駅との効果的な接続の研究及び既存公共交通の新たな活用方法等の研究。 現況の公共交通ネットワークの利便性を高め、地域内の移動手段の充実を図る。	関係機関と連携した、リニア中央新幹線長野県駅との効果的・効率的な接続の研究及び既存公共交通の充実	・南信州地域交通問題協議会 ・市町村及び地域公共交通会議 ・交通事業者（JR・バス・タクシー） ・参画団体（自治会・学校・商工会議所等）	H28～H32